

# 日本高齢期運動連絡会ニュース

発行責任者 武市 和彦  
〒164-0011 東京都中野区中央5-48-5 シャンポール中野504号  
Tel/fax03-3384-6654 E-Mail nihonkouren@nifty.com  
http://www.nihonkouren.jp

発行：隔月1回  
2019年12月1日  
No.340



「第21回青森県高齢者大会」二記事P5

## 75歳以上の医療費窓口負担原則2割化反対 保険料引き下げを求める請願署名と自治体請願活動を他団体に広く 申し入れながらとりくみましょう！

**2020年9月末まで目標80万！**

**日本高齢期運動連絡会**

検討会議中間報告に75歳以上の窓口負担2割化が位置付けられる可能性大！

11月26日に全世代型社会保障制度の実現に向けた第三回の検討会議が開かれ参加者からは、12月まとめる中間報告に、75歳以上の医療機関での窓口負担の引き上げなど、医療分野の

給付と負担の在り方を含め、改革の全体像を示すべきだという意見が相次ぎました。

この中で、有識者メンバーからは、高齢化で財政の悪化が見込まれる医療保険制度を維持するため、75歳以上の後期高齢者の窓口負担の2割への引き上げや、外来受診の際、窓口

負担に一定額を上乗せする「定額負担制度」の導入を求める意見が出されました。そして、来月まとめる中間報告には、こうした医療分野での給付と負担の在り方を含め、改革の全体像を示すべきだという意見が相次ぎました。これを受けて、安倍首相は「70歳までの就業機会の確保や、厚生年金の適用範囲の拡大に加え、医療などの分野も含めて、年末の中間報告や来年夏の最終報告に向けて具体的な調整を進めていく」と述べました。

署名用紙・チラシは日本高連HP、中央社保協、年金者組合にもあります

学習パンフレットを発行します。(12月14日完成予定)

署名用紙・チラシ(保団連作成のもの)はそ

れぞれの団体にもあります。日本高連HPからもダウンロードできます。ご利用ください。学習会資料として12月中に日本高齢期運動サポートセンターから学習冊子を発行します。

内容は①立教大学コミュニティ福祉学部教授芝田英昭先生の学習講演「人生100年時代の社会保障制度改革「骨太方針2019」から見えてくるもの」②第33回日本高齢者大会in福島第1分科会での日本高齢期運動サポートセンター理事長井上英夫先生の「国連高齢者人権条約と日本高齢者憲章」、愛媛大学教授鈴木静先生の「加速化する国連・高齢者人権条約制定の動き」

の3講演と関係資料も入っています。学習会に大いに活用ください。

中央社保協、全日本年金者組合、日本高齢期運動連絡会共催

～老人医療有料化から37年～

衆議院第一議員会館大会議室

来年の2.1集会は1月31日(金) 10時30分より15時

●講演 10時30分より12時

『後期高齢者医療制度 問題点と改善点、そして闘いの進め方』

寺尾正之さん(日本医療総合医療研究所研究研修員)

後期高齢者医療制度の問題点、制度の改善点、闘いの進め方

野党連合政権構想の政策課題の中に後期高齢者医療制度を位置づけるために

●議員要請行動12時～14時30分 議員への要請行動を行います・議員あいさつ

●まとめの集会14時30分～15時 まとめ集会

全国各地からの代表を派遣ください。署名をお寄せください!

## 10.6 「第26回和歌山県高齢者大会in有田」に360人

和歌山県高齢期運動連絡会

秋を感じるみかんに囲まれてきびドームで県高齢者大会が開催されました。

当日はオープニングの金屋清流太鼓の響きで会場へ次々と参加者が入場され、県内から

350人が集いました。

主催者あいさつで貴志武会長は、10月に導入された消費税が「福祉のため」と言って導入されたのに、実際は社会保障が削減の連続であることを強く批判すると共に、「ひとり

ぼっちの高齢者をなくそう」と訴えました。  
また中山正隆有田川町長が来賓あいさつ。

記念講演は、湯浅保健所の松本政信所長が「和歌山県の健康指標～健やかに長生きするために～」と題して講演され、参加者は資料と映像を見入っておられました。

文化行事では「いきいき100歳体操」を3地区での取り組みをビデオ紹介しながら、会場参加者と一緒に「筋力アップ体操」の実演を行いました。なかなか楽しい内容でした。コー

ラス（ファミリーコーラスほほえみ）も素晴らしいハーモニーでした。会場で懐かしい歌を歌えて嬉しかったと感想も寄せられています。

車いすでの参加者は「普段は施設暮らしだけど、懐かしい人に会えて、歌って、まだまだ元気でいたい」とおっしゃられていました。

（和歌山県高齢期運動連絡会ニュースNo.32より）

## 10.23 「第18回宮崎県高齢者大会」

### 宮崎県高齢期運動連絡会

10月23日（水）、宮崎市民プラザで『第18回宮崎県高齢者大会』が開催され、県内から約100名が参加しました。

午前の部は「高岡地区乗合タクシー『高岡きずな号』の取り組み」「防災講座」「年金裁判とマクロ経済スライド」と、3つの分科会を行いました。

午後の部の記念講演は、「あや9条の会」世話人の森崎志津子氏が『9条改憲って何？～知ってほしい本当のこと～』でした。

「日本国憲法の成立過程で、戦争の放棄を訴えた9条は、当時の幣原首相がGHQに提案したと言われます。大日本帝国憲法時代の日本は天皇主権、国民は天皇の家来で天皇・国家に絶対服従でした。第二次世界大戦で敗戦した日本は、ポツダム宣言を受諾し無条件降伏しました。GHQダグラスマッカーサー長官の指令で、連合国の命令を日本政府で執行する間接統治が進められました。マッカーサー長官は民主的憲法を日本政府へ指示しましたが、政府案は大日本帝国憲法とほとんど変わらないものでした。GHQ民政局員が指示したGHQ案をもとに、日本政府は憲法改正要項を完成し、1946年3月6日憲法改正要綱が発表、11月3日日本国憲法が公布され、1947年5月3日に施行しました」と、日本国憲法制定までのあゆみを語りました。

講演の後半では、「みんなの平和の願いが



記念講演 講師の森崎志津子さん

結実した日本国憲法が時代に合わないとして、自民党草案で変更されようとしています。安倍首相を特別顧問とする日本会議は、特権を持った支配層の人によって日本国憲法を大日本国憲法へと導いています。安倍政権は、特定秘密保護法や集団的自衛権の行使、安全保障関連法、共謀罪など新しい法律を制定しました。世界は軍事同盟をなくして平和の共同体建設に向けて動いています。紛争は“話し合い・平和外交で解決する！”世界の流れへと向かっています。

日本国憲法という宝を失わないよう、本当のことを伝えて行きましょう」と、呼びかけました。

（宮崎県高齢期運動連絡会事務局 田中裕人）

# 「第18回長野県高齢者大会」開催 高齢者の厳しい現実と展望を学ぶ

長野県高齢期運動連絡会



大会は180人の参加で盛会



講演の藤田孝典さん

10月6日、第18回長野県高齢者大会が長野市篠ノ井で開催されました。大会は、長野県、長野市のほかに「信毎」など地元紙3社と支局3社、地元3TV局の後援を受け、全県から180名が参加して来年に長野市で開催される第34回日本高齢者大会を展望する充実した大会となりました。

オープニングは地元篠ノ井の「コーラス桐の葉」の皆さんのコーラス。声量のある見事なハーモニーで参加者を魅了。続いて連絡会山口光昭会長が主催者あいさつ。「市民と野党の共闘の前進に確信をもって、アベ改憲阻止、安倍自公政権退陣にむけて引き続き頑張ろう。来年の日本高齢者大会は長野で開催。成功のため皆さんのご協力を」と呼びかけました。野党統一の杉尾秀哉参院議員の来賓あいさつ、メッセージ紹介、基調報告に続いて、3つの特別報告。

「長野の引きこもり問題」として、「ながの若者サポートステーション」所長の高橋圭子さんが、県健康福祉部などが行った調査の結果をもとに実態を報告。40～50代の男性の引きこもりが多く、親の支援で生活が支えられているが、親の死亡後の支援が必要になる実態が明らかにされました。また、「松代大本営地下壕群で平和学習ガイド」としてNPO松代大本営平和祈念館理事の久保田雅文さんが、見学者のガイド活動やそのための学習活動などについて報告。次に「59醸（ごくじょう）

の取り組みと活動」として酒造店の専務取締役兼杜氏の村松裕さんが、県内の同年代の酒造家に呼び掛けて「59醸」というグループを結成し、共同でオリジナル日本酒のリリースやイベントにより日本酒の魅力を発信する活動をしていることを報告、酒好きな高齢者にぴったりでした。

メイン講演は、「下流老人と8050問題」と題して「NPO法人ほっとプラス」代表理事の藤田孝典さん。

日本はOECD諸国の中でも6位と貧困率は高く、高齢化率の上昇と合わせて高齢者の貧困率も増え、高齢者の5人に一人が貧困。特に単身女性は5割以上。高齢期はだれもが貧困に陥る可能性がある。老後2000万円不足という金融庁報告は資産運用など自助を強調しているが、非正規雇用の増加により若い世代の子どもに頼れない現実、さらに実家暮らしが増加し家計を圧迫している。また、生活保護基準以下で暮らす高齢者（下流老人）は増え続けており、収入が少ない、十分な貯蓄がない、頼れる人がいない。あらゆるセーフティネットを失い、自力では解決が困難。高齢者の孤立化、引きこもりは誰にも起きうる問題であり、自己責任だと背負い込まないで、生活保護制度の理解と利用、ソーシャルワーカーなどに頼ることが大事。高齢者の置かれた厳しい現実を明らかにし、高齢者は「受援力」を身に着けようと語りました。

大会は最後に「市民と野党の共闘」をさらに発展させ、安倍政権に代わる国民が主人公の、真に民主的な野党連合政権を実現するため、力を合わせ頑張ろうではありませんか、とい

う「県民へのアピール」を採択して、終了しました。

(長野県高齢期運動連絡会事務局長 林 晃生 記)

## 「いきいき輝く高齢期運動をめざして山形県連絡会総会」

### 山形県いきいき輝く高齢期運動連絡会

10月26日（土）、山形市内の特養とかみ共生苑を会場にて開催。各参加団体、その他からも22名の出席がありました。

冒頭では長年の運動で多大な貢献があり、昨年逝去された県連絡会事務局長の松浦猛将氏を偲び黙とうを捧げました。

総会では沖縄県支援訪問団による沖縄激励など取り組みのふり返しをおこない、2020年の運動方針として第7回山形県高齢者大会の最上町での開催などを採択。

また新会長として介護事業NPO法人やまなみ理事長の大場武男氏を選出しました。

つづいて日本高連の武市和彦事務局長より情勢および運動方針について講演をいただきました。9月の福島大会の意義についても報告をいただき、山形県の参加者70名が福島でいただいた感銘を思い出すことができました。

また日本高連第28回総会での運動課題を出席者が共有し、深めることができました。



日本高連武市事務局長



## まちから村からの連帯で一人ぼっちの高齢者をなくそう

### ～憲法が輝く平和な未来と青森県を～

## 「第21回青森県高齢者大会」に312人

### 青森県高齢期運動連絡会

10月10日（木）第21回青森県高齢者大会が青森市のリンクステーションホール青森で開催されました。

今年は平日の開催になりましたので、参加目標を例年より少なく350名として各団体を取り組んだところ、県内各地から老若男女312名の参加で成功しました。

オープニングセレモニーとして津軽伝統人形劇の「金田豆蔵」が上演され、高齢者にとつ

ては、子どもの頃を思い出させる懐かしい芝居だったと、皆さんから好評を博しました。

続いて行われたメインの記念講演では、福島県出身の医師でNPO法人医療制度研究会副理事長の本田宏先生が、「どんどん悪化する年金・社会保障 そのルーツ明治維新を振り返る」という演題で、現在の日本の医療制度の問題点から始まって社会保障切り捨て日本への処方せんを、ところどころユーモアを交え

ながら説き明かしてくれました。そして、これらの元凶が、明治維新の薩長藩閥政治にあるという新視点から歴代の総理大臣が長州（山口県）出身の元老を中心に現在の安倍までつながっているのだ、という論法で話されました。感想文を読んでも、「本田先生のお話しは大変良かったです。今回のお話の内容を是非全国各地で講演して頂きたいと思います。」といった感じのものが多数ありました。「来年もまた参加したいです。」といった感想も多く、我々スタッフ一同も励まされています。

午後は、3つの会場に分かれて有意義な時間を過ごしました。学習講座として「最近の葬儀、お墓事情・終活について」を上級終活インストラクターの村井麻矢氏にお話ししてもらったり、分科会形式で、「しゃべり場」と「なんでも相談会」を用意し、「しゃべり場」では、高齢者の日頃のストレスを発散・解消



する場として自由に発言する機会となりました。また、「なんでも相談会」では、それぞれの専門家に日頃の悩みを相談し解決する場になり、帰る時には皆さんがスッキリした表情で帰途に着いていたのが印象的でした。

全体的な感想として、「去年も今年も記念講演の講師の選定が良い。来年もお願いします。」ということで、主催者側としてもとても嬉しく思っているところです。

（青森県高齢期運動幹事会 会長 二川原 一）

## 第24回大阪高齢者集会

### 大阪高齢者運動連絡会



平井賢治会長

「ひとりぼっちの高齢者をつくらないまちづくりを」をスローガンに第24回大阪高齢者集会が10月30日、大阪府保険医協会A&Dホールで開かれ、87人が参加しました。

主催者を代表して平井賢治会長は開会のあいさつで、「安倍政権の9条改憲、社会保障改悪、維新の「大阪都」構想による市民サービス切り捨てが進められようとしているなか、高齢者運動を強めるスタートに」と呼びかけ

ました。

大阪健康福祉短期大学の鴻上圭太教授が「高齢者の社会的孤立と貧困の実態」をテーマに基調講演。大阪社会保障推進協議会の府民の生活実態調査から見える高齢者の厳しい実態と、貧困に陥ることが多い単身高齢者との結びつきを強める必要性が強調されました。

全世代で「生きづらさ」があり、その中身として将来や老後の収入への不安、社会保障費の重さが共通しているとし、「社会保障が逆に生活を苦しめている」と指摘。

今後の運動として生活保障、介護保障拡充の論点で、地域コミュニティの再構築や世代間の交流、基本的人権を持つ「権利者」であることへの支え合いなどを提起しました。

大阪府保険医協会から安倍政権の社会保障改悪の動き、医療生協かわち野生活協同組合、NPO法人茨木高齢者の会から高齢者の健康づくりや居場所づくり、会員の力に依拠した組織運営など多彩な活動が報告されました。

# 21世紀／第19回京都高齢者大会 憲法を生かし、ひとりひとりが大切にされる 希望ある未来めざし、手を結ぼう！

## 京都高齢者大会実行委員会



記念講演：二宮厚美さん

今年の京都高齢者大会は、10月19日ラポール京都で開催、延べ386人が参加しました。

午前中は、5つの分科会——

- ①憲法・平和・人権・民主主義を考える
- ②みんなで介護について考えよう
- ③高齢者の仕事と生きがい
- ④災害時の避難問題を考える
- ⑤きょう風井戸端会議

と学習講座「どうする暮らし、どうなる年金  
～みんなで学び、話し合い、考える～」  
が開かれ、報告・ミニ講演・意見交換・交流  
などが積極的に行われました。

午後は、京都うたごえ協議会のみなさんの  
による「平和メドレー」で開会。

(今年は11月29日～12月1日に、京都で日本の  
うたごえ祭典が開かれます)

主催者挨拶を田中浅雄（京都高齢者大会実行  
委員会代表委員）が行い、来賓の京都総評議  
長 梶川憲氏と日本高齢者大会中央実行委員  
会事務局長 武市和彦氏の挨拶を受けました。

記念講演は神戸大学名誉教授の二宮厚美  
さん。

二宮さんは『憲法にもとづく社会保障と日  
本経済の再生』と題して講演。二宮さんは大  
変な病気をされたのですが、その実体験をも  
って「憲法25条の理念に基づいた社会保  
障制度を整備・拡充させることが日本経済  
の再生・活性化につながる」と改めて痛感  
したことを

話され、「社会保障を破壊し、改憲を狙う安  
倍政権を続けさせてはならない」と強調さ  
れました。大病の後とは思えないほどの熱  
弁に参加者は大きな感動を覚えました。

記念講演の前に、午前中の各分科会や学  
習講座の報告と、9月21日に開催された『  
第7回高齢者のくらしを考える北部集会』、  
『第33回日本高齢者大会in福島』の報告  
もあり、京都としての一連の取り組みであ  
ることを確かめました。

最後の大会宣言で「私たち高齢者には長  
い人生があります。今こそ世代をこえて力  
を合わせて進んでいきましょう」と呼びか  
け、採択した後、100人を超える人たちが  
、四條大宮までパレードをして市民にアピ  
ールしました。



京都は『京都高齢者大会』と『北部高  
齢者のくらしを考える北部集会』、『日  
本高齢者大会』を企画・準備・運営する  
ために、多くの団体と結束して『京都高  
齢者大会実行委員会』をつくっていま  
すが、各地の老人クラブなどへの働  
きかけはまだ不十分で、それが今後  
の課題です。

(京都高齢者大会実行委員会 北村 茂)

# 「2019年度兵庫県高齢者大会inたつの」に350人

## 兵庫県高齢期運動連絡会

11月2日（土）兵庫県たつの市立会館総合文化会館アクアホールにて「2019年度兵庫県高齢者大会inたつの」が開催されました。

今回の開催地域の「たつの市」は兵庫県のほぼ西端にあり、大会会場も駅から離れており、お世辞にも交通の便が良いとは言えませんでした。実行委員会形式で参加していただいた各団体（年金者組合、新日本婦人の会、姫路医療生協、高齢者はりまの会）からも不安な声が上がっていましたが、数か月にわたる実行委員会での論議と各団体の地域への呼びかけ、また当日の好天にも恵まれ約350名の参加で大成功を収めることが出来ました。



当日の大会では兵庫県高齢期運動連絡会会長 福原富雄氏が基調報告として現在の政治情勢や兵庫県における高齢者の状況を述べ、高齢者が安心して地域で楽しく暮らせるように、自治体への様々な要望とともに、地域の団体・個人と相談しながら交流を深め、各地域で高齢期運動連絡会を作っていこうと呼びかけました。

大会の記念講演は姫路医療生協ヘルスコープあぼし診療所所長 藤本壮之先生にお越しいただき、

『最期まで自宅で生きる』と題して、在宅医療について講演していただきました。住み慣れた自宅や地域で暮らし続けたいという願いに応えるには、本人や家族がどのような心構

えをすべきかをお話しいただき、参加者は自身の立場に置き換えながら様々な思いで聞かれていました。



その後、地域での「うたごえ喫茶」での取り組みとしてステージ上で会場と一体になりながら歌った後

第二部はコンサート「はりまを歌う」として地元西播地域で活動している「ひとつ山こえてみよう会」の皆様にお越しいただき、播磨の自然、歴史、人々の暮らしをテーマにした楽曲演奏していただき、会場は最高の盛り上がりを見せて閉幕となりました。



兵庫県高齢期運動連絡会では、スローガンの「～町から村からひとりぼっちの高齢者をなくそう～もとに各地域持ち回りで兵庫県高齢者大会をこれからも開催していきたいと考えています。